

## (特活) Oneself

団体概要：外国にルーツのある方々に対して、就労や自立を目的とした日本語支援及び雇用・自立支援事業を行い、地域住民の一員として社会参画しやすい環境を提供している

事業名：外国にルーツを持つ方を対象とした食糧品支援及び地域活動への参画促進事業

助成額：300,000 円

### 事業の実施内容

#### 〈緊急支援〉

開催場所：国際交流シェアハウスやどかり内

対象者：外国にルーツを持つ方（主に留学生）

回数：原則毎月第2土曜日 10：00～12：00

\* 緊急性の高い案件は SNS 等の連絡により 365 日対応  
来館者数：114 名（延べ）

新型コロナウイルス感染症などの理由からアルバイトのシフトが減少している留学生を対象に食糧品提供を実施した。食糧品提供時にはヒアリングを実施し、生活全般の様子を確認し、状況に適した量の食糧品提供を行った。

①健康面 ②ビザ関連 ③学費・生活費等の確認 ④アルバイトの有無を確認。

その他、社会的孤立を防ぐ活動として、地域団体と繋がり団体での活動に有償で参加する活動を実施した。

### 事業の成果

#### 〈緊急支援〉

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからも生活状況が変わらない、苦しい状況にあったのはミャンマー人留学生であることがわかった。新型コロナウイルス感染症と国内のクーデターの影響で国からの仕送りがなく、学費や生活費の捻出が非常に難しいことを、ヒアリングを通して痛感した。次に多い中国人留学生は来日間もない時に来館するケースが多かった。理由として挙げられるのは他の国の留学生と比べて家賃が高いことである。単身住まいが多いことから1人当たりの家賃支払いの平均は55,000円前後で家賃、水道光熱費を支払うので精一杯だという声もあった。また国公立大学に在籍している中国人留学生の来館も多かった。大学内での授業は英語なので問題ないが、アルバイトを探そうと思うと日本語がまったくできないと、いくら英語が堪能でも採用してもらえないという声があった。その他、夏休みに40時間のアルバイトが確保できないので学費が捻出できないという声も多かった。

#### 〈社会的孤立を防ぐ活動〉

ヒアリングを通して、食糧品提供だけでは状況が改善しない留学生には地域活動を提供した。

ミャンマー人留学生が地域活動に多く参加した。コミュニケーション能力を高めながら生活費として地域活動

費を支給した。家賃や水道光熱費の不足分に充てることができ、助かっているという声もあったが、状況が改善すれば他にも支援が必要な学生がいるので、自身でもアルバイトは引き続き探そうと就労支援も行った。コロナが5類に移行したこともあり、12月ぐらまでで地域活動費の支給が必要なほど収入のない留学生は落ち着いた。

### 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトが減少していることだけではなく、ミャンマー人留学生のように母国の不安定な状況が重なり困窮していることもある。「衣食住」の緊急支援はいつでも対応できること、あそこに行けば誰かが話を聞いてくれるという場所であることが大事だと思う。

しかし、そういった場所を運営・維持することがNPOの使命感や市民のボランティア精神で補っているだけでは継続が難しい。

### この事業を通じて良かったことのエピソード

今年度も留学生に対して活動を継続できたことです。留学生の中には食糧品提供を受けながら無事に学校を卒業し、神戸を離れる学生もいますが、後輩に「何か困ったことがあればやどかりに行きなさい」と教えているケースもあります。そのため「先輩に教えてもらった」と言って来館する学生もいて、しっかり情報が次の留学生に繋がっていることは取りこぼしのない支援を行う際に必要だと感じます。

### 寄付者へのメッセージ

新型コロナウイルス感染症が発生してすぐに留学生から「アルバイトがなくなって生活費が足りない」というSOSを受けました。留学生にヒアリングし、サポートが必要なことを確認し、食糧品をはじめとする緊急支援を続けてまいりました。支援を必要とする人が増え続ける中で、団体として活動を継続させることは簡単ではありません。

いつ、だれが、どんなSOSを出しても対応できるようにNPOの活動を支えてくださる方がいらっしゃるのとても心強く、活動に集中することができます。温かい御支援をいただきまして本当にありがとうございました。

